

ブレイクスルーのときは、まさにいま…



理工学部長

かざま
風間

しげお
重雄

光の三原色を発光する光源があれば、すべての色を表現できます。これまで半導体デバイスの発光源として、赤色と緑色の発光ダイオード(LED)は二〇年以上も前からいろいろなところで使用されてきましたが、青色LEDが実用化されたのは、ごく最近のことです。その効率的な製造方法の発明をめぐって、現在はアメリカのカリフォルニア大学サンタバーバラ校教授の中村修二さんが発明の対価として二〇〇億円を請求していた裁判で、全額を認める判決が出され、その金額の大きさからもう青色LEDの存在と重要性が一般の人々にも知られわたりました。

実用可能な青色LEDを窒化ガリウムという取扱いの困難な素材を用いて最初に開発した赤崎勇・現名城大教授も、ほとんどの研究者が他の素材に移っていったとき、「ひとりで無人の荒野を行く」という境

地に陥りながらも、ここにこそ『正解』があると信じて研究に邁進したということでした。中村さんも、小さな企業の研究室で多くの困難とたった一人で闘いながら、独創的な方法で様々な障碍を乗り越えていったのです。

このようになされた研究の背後にあるのは、決して潤沢な資金や豊富な人材ではありません。研究というものは、必ず停滞するものです。その停滞を打ち破るブレイクスルーは、中村さんがよく言うように、『可能性を信じること』『他人のやっていたことは、決してやらないこと』『他人のちからを当てにしないこと』『というような独立心があってはじめて生まれてくるものです』。

理工学部に入學した皆さんにとって、人生のブレイクスルーのときは、まさに、いまこのときです。自分の課題を見つけ、その『正解』を決してだれかに期待することなく、自らの手によるブレイクスルーを期して努力して下さい。